

# 回想法センター・12月号

平成24年11月30日発行  
発行 龍ヶ崎市回想法センター  
龍ヶ崎市平台 5-9-7  
電話・FAX 0297-65-4443  
e-meil pia-kaiso@etude.ocn.ne.jp  
h p www16.ocn.ne.jp/~piakaiso

## 今年も残り少なくなりました

### サンタさんの思い出

子どものころ、クリスマスが近づくと、弟と「サンタさんに何を持って来てもらおうか」と、コタツに入りみかんを食べながら相談しているのを母が見守っていました。

兄弟や友達と遊べるようなカルタであったり木琴であったりと、私たちの願いとは程遠い物が送られてきましたが、それでもサンタさんの贈り物は嬉しくわくわくした思い出があります。



そんなクリスマスプレゼントで忘れられない贈り物は、社会人になった隣のお姉さんから届いたサザエさんの本でした。『漫画はだめ』と、漫画本を買ってく

れなかった母も、サザエさんの漫画本に釘付けになりました。その後、母が何冊かサザエさんの本を買ってくれた記憶があります

今でも、サザエさんを手にとると、その時代、時代のファッションであったり、生活様式が懐かしく感じられ、懐かしさと、思い出し笑いをしてしまいそうなユーモアは、子どものころと同じように新鮮で、今でも、私の心の中にはサザエさんは健在です。

### 朝食はパンですか？

米離れが、特に若い世代では急速に米離れが進んでいるとの報告が出されていきました。お箸の国の住人としては寂しく感じています。

子どものころは、米は配給でした。母と米穀通帳を持って米屋さんにお米を買いに行くと、お米屋さんは、米穀通帳に長四角の判を押し、母が作ったさらしの袋にお米を入れてくれるのでした。しかし、配給米だけではたらず、麦を混ぜたり、お芋を入れたご飯も食べました。

時々、浦安からおばちゃんがアミの佃煮やアサリの佃煮など売りに来ていましたが、時には、さらしの袋に入ったお米をお腹の中から出しては、そのお米を母は買っていました。子供心になんておばちゃんは、お腹にお米をまいてくるのか不思議に思っていました。それが闇米ということをお父から教えてもらいました。

今と違って物のない時代でしたが、物が無い分、一粒のお米も大切に食べていました。お米一粒一粒の命を大切に、新米を噛みしめ、味わいたいとおもいます。

## 12月の予定

今年の回想ガイド活動は、4日（火）7日（金）で終了です  
22日（土）昔の遊び体験教室は、お休み

開催場所は、歴史民俗資料館  
開催時間は、13時30分～15時30分です

